

[事業ウェブサイトへ](#)

文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)

2024 年度第 1 回拠点会議(合同部会)議事録

1. 日時 2024 年 5 月 11 日(土) 10:00~12:00
2. 開催方法 対面
3. 開催場所 ヒルトンプラザウェストオフィスタワー8 階会議室(B 室ほか)
〒530-0001 大阪市北区梅田 2 丁目 2 番 2 号
4. 議題
 - (1) 拠点事業全体構想と各部会の関係について(全体会)
 - (2) 各部会の 2024 年度活動目標および年次計画等について(各部会)
 - (3) 2024 年度各部会事業方針について(全体会)
 - (4) その他

議題 1 拠点事業全体構想と各部会の関係について(全体会)

・資料に基づき、事業全体の目的、各部会の目的や業務分担について確認を行った

議題 2 各部会の 2024 年度活動目標および年次計画等について

第 1 回連携部会議事録

日時 2024 年 5 月 11 日(土) 10:20~11:30

場所 ヒルトンプラザウェスト オフィスタワー8階会議室(B 室)

出席者 20 名

【大学】石川 慎一郎(神戸大学)／菊池 律之(天理大学)／北出 慶子(立命館大学)／櫛引 祐希子(大阪教育大学)／藪崎 淳子(追手門学院大学)／杉本 香(大阪大谷大学)／建石 始(神戸女学院大学)／長友 文子(和歌山大学)／石野牧生(甲南大学 ※野々口先生の代理出席)／野畑 理佳(武庫川女子大学)／浜田 麻里(京都教育大学)

【日本語学校等】氏原 庸子(大阪 YWCA)／内田 さつき(コミュニケーション学院)／住田伸夫(京都民際日本語学校)／戸川 朝子(南大阪国際語学学校)／目黒 裕将(エიმ奈良国際アカデミー)

【行政機関等】近藤 徳明(京都府国際センター)／篠原 典子(兵庫県国際交流協会)／田中 恵子(神戸国際コミュニティセンター)／真嶋 潤子(国際交流基金関西国際センター)／山崎 宏樹(国際交流基金関西国際センター)

(審議事項)

1. 部会運営方針について

・大学関係者、日本語学校関係者、行政関係者の3者が対等の立場で、協力して事業を進めていく方針を全体で確認した

2. 行政系団体への新規参画依頼について

・京都府国際センター近藤氏より、地域国際化協会のネットワークをふまえ、大阪の行政関係者の紹介があり、紹介者を本事業に招聘することについて確認した

3. 2024年度事業計画案について

(1)参画機関を紹介するオンラインレポートの発行

- ・オンラインレポートの刊行については概ね了解が得られた
- ・大学版については、現職教員を意識したキャリアアップ用の大学院課程の紹介なども含めるとよいのでは、という提案があった
- ・日本語学校版、行政系団体版については、各機関がすでにウェブサイトを持っている中で、「誰に向けた情報発信か」を明確にする必要性について指摘があった
- ・初年度内の刊行に向けて、テンプレートの作成→情報の収集→ウェブ公開、というふうに、段階的に準備を進めていくことが確認された

(2) 2025/3/22(予定)近畿ブロック協議会の企画(案)

<第1部:1000~1200>

- ・参画大学における養成課程の学生・院生による学修・体験内容の発表会
- ・日本語学校等による就職説明会

<第2部:1300~1330>

近畿ブロック2024年度事業報告

3部会からの報告(10分×3)

<第3部:1345~1615>

基調講演「新しい登録日本語教員制度について」(60分、文科省)

実践報告(20分×3)

- ・講師A(大学:日本語教師養成の工夫と出口戦略)
- ・講師B(日本語学校:日本語教師の校内研修とスキルへのニーズ)
- ・講師C(行政系:地域における日本語教育サポート体制と専門人材へのニーズ)

・シンポジウム(30分)

基調講演者+講師 A~C

<情報交換会:1620~1700>

・第1部については、間口を広げる方針が確認された。狭義の日本語教育(学)だけでなく、日本語学・言語学・関連分野のものも可、狭義の研究発表ではなく、実習体験報告、留学先体験報告、ボランティア教員報告なども含めた平素の学びの交換の場とする

・上記にからめ、日本語教師志望の学生が多く集まることから、同時に、日本語学校等による就職説明会(※時期をふまえ3年生を対象にしたガイダンス的なもの)を並行開催してはどうか、という提案があった(※「さんぼう国際事業部」などにより、同様のイベントの開催あり)

・第3部については、それぞれのセクター全体での取り組み状況を誰かが総括で発表するのではなく、その年度の担当者の所属機関における実践例紹介が主眼となることを確認した

(3)「近畿の日本語教育ネットワーク」ウェブサイト・メーリングリストの作成

・上記が承認された

・承認を受け、以下の3つの媒体の運用を正式に開始した

事業ウェブサイト: <https://language.sakura.ne.jp/scweb/kyoten.html>

事業ブログ <https://k-jltp.blogspot.com/>

近畿日本語教育情報交換ML(公開掲示板) kinki_nihongo_info@googlegroup.com

(ML紹介文)

これは、近畿地区の日本語教育関係者(教員・学生・行政企業関係者ほか)の情報交換用MLです。このMLは文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)の一環として設置・運用されています。このMLは、クローズではなく、オープンです。MLに投稿すると、登録者に即時配信されると同時に、Google Group 画面上で、非登録者からも読めるようになります。したがって、このMLは、日本語教育に関心のある一般の方向けの「公開掲示板」として運用されます。

登録者の皆様には、たとえば、下記のような情報の投稿をお待ちしています。

- ・各大学での公開イベントの情報(講演会、研修機会、学生報告会など)
- ・大学、日本語学校、日本語系機関での求人情報(インターンシップなども含む)
- ・行政系イベントの情報(地域日本語教育関連の講演会、ほか)
- ・関連分野(日本語教育学・日本語学・そのほか)の学会や研究会の情報(発表公募、投稿募集、大会案内など)
- ・関連分野の新刊情報(自著、他著、いろいろ)
- ・そのほか関連する情報

皆様の活発なご投稿と、情報交換により、このMLが、近畿の日本語教育や関連分野(日本語

学・言語学・教育学・社会学などを広く含む)の研究および実践に関わる情報交換の場の 1 つになればと思います。

4. そのほか

第 1 回研修部会議事録

日時 2024 年5月11日(土) 10:20~11:30

場所 ヒルトンプラザウェスト オフィスタワー8階会議室(D 室)

出席者 10名

(岡本牧子、奥美和子、熊野七絵、嶋本圭子、新谷葉菜、竹田悦子、永井邦明、朴秀娟、朴鍾祐、林良子、安田麗)

(審議事項)

1. 研修部会運営について

運営メンバーの自己紹介および各自が部会でできることや、やってみたいことなどについて意見を交換した。

- ・日本語学校からは単なる実習の下請けではなく、建設的な情報交換を行うことを希望するという意見があった。
- ・大学からは実際の現場でどのような日本語教師が求められているのかを知りたいという要望があった。
- ・国際交流基金では研修や e ラーニング、教材開発、完全自学学習で学べるプラットフォームの開発、ICT の整備などを行っている。
- ・ノンネイティブの日本語教師に対する研修を行いたい。
- ・ノンネイティブの教師を採用する側の研修もあわせて行う必要がある。
- ・ネイティブとノンネイティブ教師のネットワーク作り。
- ・海外ですでに日本語のプロフェッショナルとして活躍している人に対する研修。
- ・民間の日本語教師養成機関の参加の可能性?
- ・日本語教師は日本語を教えるだけではない。実習では十分に習得できない知識やスキルを研修で補えることができればよい。

2. 研修のイメージに関する確認

・参考資料(<https://www.moj.go.jp/isa/content/001392240.pdf>『令和5年 日本語教育人材の役割、段階、活動分野に応じた養成、研修のイメージ』)をもとに、日本語教師養成講座を担当する人(学生や初学者を教える人)、養成講座の担当教師を育成する人(教師に教

える人)、すでに日本語教育の専門家として活躍している教師のリカレントを行う教師(日本語教育のプロフェッショナル)の3つの研修対象があることを確認した。

- ・すでにあるコンテンツを研修に活用する可能性について意見交換を行った。
- ・G-Navi プロジェクト(兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業)
- ・国際交流基金にほんごeラーニングみなど
- ・すでにある日本語教師ネットワークを利用する可能性について意見交換を行った。
- ・大阪YWCA 専門学校では日本語教師ネットワークがある。
- ・兵庫国際交流会館ではボランティアのネットワークがある。

3. 活動方針および実施計画案

- ・令和6年度:近畿地区における日本語教師教育者研修の実態とニーズ調査をおこなうことを確認し、研修部会で 情報収集が必要な項目についてアンケート原案を作成し、調査部会のスケジュールに合わせて実施することを決定した。
- ・インターンシッププログラム(養成講座を受講している人とそれを教える人を対象)の実施について検討した。
- ・ボランティアの研修などスポットセミナーを開催することを検討した。

4. 令和6年度部会開催スケジュール (案)

- ・9月8日(日)午後:部会および参加希望者に研修を実施
- ・12月ごろ:調査部会とすり合わせアンケートの原案を完成させる。

第1回調査部会議事録

日時 2024年5月11日(土) 10:20~11:30

場所 ヒルトンプラザウェスト オフィスタワー8階会議室(D室)

出席者 7名

(出席)川上・村尾・新井・芹澤・高梨・新美・柏原

(欠席)北出(※連携部会出席)、丸山

(審議事項)

1. 調査部会運営について

1-1 運営メンバー

① 自己紹介

・出席者

神戸大学 川上 尚恵 グローバル教育センター・国際文化科学研究科講師

神戸大学 村尾 元 国際文化学研究科教授
 神戸大学 新井 潤 グローバル教育センター助教
 神戸大学 芹澤 円 国際文化学研究科助教
 関西大学 高梨 信乃 外国語学部教授
 甲南大学 新美 太基 経営企画室課員
 神戸国際コミュニティセンター 柏原 さや 地域日本語教育コーディネーター
 ・欠席者
 立命館大学 北出 慶子 文学部教授 *連携部会にご出席(兼務)
 コミュニカ学院 丸山 友子 教務主任

② 部会メンバー拡充について

・現メンバーは大学関係者が多いため、日本語学校や行政等からもメンバーを入れたい。→兵庫ネットでの広報を行う(柏原)、神戸以外の日本語学校を入れては?

(2) 活動方針及び実施計画案

主として下記の2点を実施

- ① 日本語教師教育者の実態・ニーズ調査
- ② 日本語教育機関/日本語教師の実態・ニーズ調査

上記の調査結果から、「近畿地区における日本語教育の教師・指導者としての専門人材に関する提言」を行うことを目指す。

実施計画案

		養成のプロセス
① 日本語教師教育者の実態・ニーズ調査		
② 日本語教育機関/日本語教師の実態・ニーズ調査		
R6年度:①	・日本語教師教育者等による会合(課題の把握) ・調査フォーマットの作成⇒パイロット調査	4-7月:会合の計画 8-9月:会合の実施 10-3月:調査票、パイロット
R7年度:①	・日本語教師教育者に対する調査 ・上記の結果分析	4-7月:調査計画 8-9月:調査実施 10-3月:結果分析
R8年度:②	・日本語教育機関/日本語教師に対する調査 ・上記の結果分析	4-7月:調査計画 8-9月:調査実施 10-3月:結果分析
R9年度:報告、 提言	①②の結果に関する報告、提言	4-12月:報告、提言のまとめ 1-3月:各方面への周知

※研修部会のニーズ調査の一部分を含んだ調査とするなど、研修部会と協力体制を取り、調

査を実施する(特に、令和6年度)

- ・まずはどのようなプログラムを行っているかを知る必要があるのでは?→「養成のプロセス」を①の調査の中に入れて、養成プログラムの実施方法についても調べる。
- ・この部会の調査の対象は日本語教師か教師教育者か?→両方ではないか。教師教育者に対する調査がまずは必須であり、どのような教師を養成しているか、また実際に日本語教育として働いている機関のニーズを知ることも必要。
- ・学習者の教師に対するニーズを知る必要もあるか?→養成に関わる部分で必要である。(例:オンラインで学びたい学習者のニーズに対して、オンラインで教えられる教師を養成しているか)
- ・本事業のそもそもの目的は?→日本語教育の質を高めることではないか。
- ・中堅レベルの教師の中には、新しい資格を取らないという教師も一定数いるだろう→研修(特に中堅の)はどうあるべきか。
- ・「調査」は本事業の必須の内容なので、ほかのブロックでも行っているだろう。ほかのブロックと一緒に調査できることもあるのでは?→ほかのブロックの状況を調べてみる。
- ・日本語教師教育者にどこまで含まれるか→まずは教育実習担当者ではないか。プログラム設計者も含む?
- ・多様な教師教育者をどう把握するか?→座談会でより多様な方にはいっていただく方がいい
- ・非常勤の教師に対する研修はどうあるべきか?→非常勤という立場でのニーズを知るべき

(3) 年間の部会開催スケジュール

- ・2-3か月に1度、基本的にはオンラインで開催
- ・ディスコードを使って連絡

2. 2024年度事業計画について

- ・下記について実施
- (1) 日本語教師教育者の実態の把握:教師教育者による座談会(会合)を対面で実施
- (2) 調査フォーマットの作成
- (3) パイロット調査の実施
- ・調査の形態として、量的にデータを収集・分析できるアンケートを中心とするが、アンケート項目にインタビューに応じてもらえるかを問う質問を入れ、応じてくれた方に後日インタビューできるようにする。
- ・多くの機関に調査に協力をしてもらえるように、ネットワークを活用したりして、広報を工夫する。日本語学校や各実践を行っている機関が意見を発信できるものとして考えてもらえるようなものになればいい。

3. そのほか

第1回支援部会議事録

日時 2024年5月11日(土) 10:20~11:30

場所 ヒルトンプラザウェスト オフィスタワー8階会議室(D室)

出席者 8名

(出席)有田節子、伊澤明香、黒田千晴、齊藤美穂、堀江亜希子、松本理美、水野マリ子、米澤千昌

(欠席)和泉元千春、(他部会出席による欠席)長友文子、新美太基、浜田 麻里

審議に先立ち、当日配布資料(事前アンケートの回答)をもとに、各部会員の活動や関心事を共有した。

(審議事項)

1. 支援部会運営について

(1) 本部会の体制づくり

部会のメンバーが少人数であることをふまえ、年度ないし事業期間を通した固定的な役割を定めず、時期により重点事項を決定して、その内容に応じて相互のネットワークやリソースを持ち寄り、3名程度で研修会・研究会・報告会等を企画することとした。

(2) 本部会の活動方針

【原案】主として下記の3つを提案

- ・外国ルーツの児童生徒支援従事者のニーズ調査
- ・外国ルーツの児童生徒支援のためのネットワーキング
- ・外国ルーツの児童生徒支援者のための研修会等の実施

原案に対して世話役より、事前アンケートの回答をもとに下記のように改めることを提案があり、承認を得た。

(案)外国ルーツの児童生徒に対する支援充実のためのネットワーキング

このネットワーキングのため、また形成したネットワークを活用して、下記の事業を行う。

1. 支援体制・活動等に関する地域間の情報共有
2. 関係機関・研究機関・支援者間の連携構築と強化
3. 支援者の養成・指導法の研究

2. 2024年度事業計画について

審議事項1-(2)の方針をふまえ、本年度は主として、公開研修会・研究会・報告会等の企画・開催により関心を持つ人を集めるとともに、参加者アンケートによりニーズの掘り起こしを行うこととした。具体的には、メンバー各自が既にかかわっている活動の一環として開催する研修会・研究会・報告会等を本プロジェクトとの共催という形で有機的に連携させて実施し、本事業と既存の活動の双方を充実させていく。これらの研修会等を各地域で外国ルーツの子どもの支援にかかわっている人々(学校教員、支援者等、学生等)も参加できるように公開で実施することにより、広く社会に向けて情報や知見を発信する。今後のスケジュールについては、まずメールで手持ちの企画や提案を募り、検討していく。

また、情報発信のためのウェブサイト(支部会のページ)構築のため、まずは部会内で情報共有のあり方(ワークスペースの使用、研修会参加報告等)について試行・検討を行うこととした。

議題3 2024年度各部会事業方針について

- ・連携部会世話役より、行政機関への参加呼びかけ、3/22シンポ案などについて報告があった
- ・研修部会世話役より、今後の進め方や、近くイベントを開催予定であることについて報告があった
- ・調査部会世話役より、今後の調査方針、仕事の進め方について報告があった
- ・支援部会世話役より、メンバーの活動をシェアし、それをベースとして今後の活動プランを構築していくことについて報告があった